

「西塩子の回り舞台」裏方ばなし～舞台有効活用プロジェクト発進！～

この記事を読者がご覧になる頃には、「西塩子の回り舞台」を使った催事は、すべて無事に終了していることでしょう。お楽しみいただけましたでしょうか。

今回は、今年初めて取り組んだ、本公演と翌日の予備日以外に舞台を使う試みについてお話をします。

前回まで、どうしてできなかったのか

毎回、1カ月もかけて組み立てるのに、たった2日程使用しただけで解体してしまう「西塩子の回り舞台」。早くから保存会でも、本公演の前後の週末に何か舞台を有効に使う手立てはないか、との意見が出るものの、前回の国民文化祭で開会式のサテライト会場として県が使用しただけで、なかなか実現には至りませんでした。

「本公演以外の週に、舞台を使うのは、そんなに難しくないので？」と思われるかもしれませんが。しかし、発電機や照明・音響機器のリース代など必要経費を考えると、西塩子の回り舞台保存会としては、本公演と予備日の2日間で精一杯。体力的にもヘトヘトです。

では、使いたい人や団体を公募して、必要経費はそちら持ちでやったらどうか、と作戦を練ったものの、「どうやって告知する？」、「どんな団体が名乗り出るか不安だ」、「そもそも申し出てくれる人や団体があるのか？」等々、マイナス要因ばかりが頭をよぎり、先送りされてきたのです。

背中を押してくれたのはボランティア

幸いにも今年は、本公演の翌週26日に、県教育委員会より、今年度の「茨城県郷土民俗芸能の集い」に「西塩子の回り舞台」を使わせてほしい、とのお話をいただいていた。舞台を使っただけで団体としては、経費・出演団体の面とも、全く心配のない、ありがたいご依頼です。

では、他の週はどうするのか？募集するのか、やはり今回も見送りか・・・。

この一歩を踏み出せなかった保存会の背中を押したのも、市まちづくりネットワークをはじめとするボランティアの皆さんでした。

まず、茨城大学の学生たちから「茨城大学の日」として一日舞台を使いたいとの申し出があり、10月5日に、舞台開きを兼ねて塩田地区敬老会とのコラボレーションが実現。

まちづくりネットワーク有志の全面的な協力により、13日には舞台を使った屋外映画会、本公演予備日の20日には、「常陸大宮 ふるさと民話語りの日」の開催が計画され、舞台の有効活用が具体的にとなっていきました。

問題は経費のねん出

20日の催事については、本公演の予備日ということで、機器・経費とも問題はないのですが、13日の屋外映画会は、なかなか難問でした。

上映作品の選択や機材の調達など、映画会の企画・準備については、水戸短編映画祭を企画運営しているNPO法人シネマパンチ代表で、本市出身の平島悠三さんが快諾してくださったものの、機材やフィルムのレンタル料など、高額な必要経費のねん出が問題となりました。

ところが、ありがたいことに市内の会社がスポンサーにと名乗り出てくださり、見事解決。「西塩子の回り舞台」の有効活用には、企業によるメセナ（芸術・文化の援護活動のこと）という方法もあることを示す事例となりました。

次回へのステップ

大きな役割を果たしたボランティアの活躍は他にも。茨城大学工学部の学生さんたちによる、保存会の公式ホームページの制作です。このHPへのアクセスは一日平均200件程もあるそうで、「西塩子の回り舞台」に興味を持ってくださる方が格段に増えたと思われます。



また、県の催事がある26日の午前中には、山方南小児童と市内伝統芸能団体による「常陸大宮市常陸国風土記1300年記念芸能公演」が実施され、初めて市独自の催事に「西塩子の回り舞台」が活用されます。

11月初旬に今年の舞台は解体されますが、地域の活性化に生かすことで、ふるさと文化の継承を図る試みは、今回の経験を踏まえて続いていきます。